

**「農地中間管理事業による農用地の集積・集約化の促進に関する意見交換会」  
 において担い手農業者組織から出された意見・要望の概要**

日時：平成28年11月 2日

場所：杉妻会館「牡丹B」

連携協定締結式終了後に開催された上記意見交換会において担い手農業者組織の代表者から出された意見・要望の概要は次のとおりです。

機構としては、行政機関とも協議しながら、これら寄せられた貴重な意見を踏まえ、今後の事業推進に努めてまいります。

発言者	主な意見・要望
指導農業士会会長	<p>経営上、一番大切な農地が分散しており、それが緩和されれば、農作業がやりやすくなり効率が上がるので、集約化の研究をしたい。</p>
青年農業士会会長	<p>今後、地域の問題が具体化する前に、機構を利用した経営について仲間と話をしながら、次世代に繋げるような経営に努める。</p>
うつくしまふくしま農業法人協会会長	<p>会員は市町村を超えた広範囲に農地を持っている人も多く、担い手としてエントリーするには複数地域の「プラン」に顔を出さなければならない。場合によっては、県や農政局を跨ぐ広域に事業展開する経営体もあり、現状の人・農地プランは「地域」が強すぎ、視野が狭いと意見もある。</p> <p>外食産業との取引では、農産物の年間供給が求められ、全国レベルでの産地リレーで対応する必要があるが、このようなケースで機械等の補助事業を導入しようとする場合、広域での事業採択のしくみができておらず採択にならない。</p>
認定農業者会会長	<p>機構の農地中間管理事業は、これまで水稻の規模拡大の視点が大きかったが、果樹農家も事業を活用していこうとする中で、事業を見直すことも必要ではないか。</p> <p>地元では、新規就農者が機構を利用したくても、そこまでのステップに至らず難しいと言われており、丁寧な対応が必要である。</p>

発言者	主な意見・要望
稲作経営者会議会長	<p>集落単位でなく、大字単位の中での地域の連携をしていかないと、規模拡大が進まない。</p> <p>人・農地プランは、集落単位でなく、より広域の大字・旧町村・町単位での取組が必要である。</p>
果樹経営者研究会会長	<p>果樹は耕作面積は少ないが頑張っている果樹生産者の周辺に放任園が存在している。まだ共有名義の農地は利用権の設定が難しかったり、利害が伴う隣接地の農業者同士では直接に貸借を話づらい場合が多くある。このような場合に公的機関に積極的に関与してほしい。</p>
指導農業士会会長	<p>水の便が悪かったところや三角地等の条件の悪い貸付希望農地は、耕作放棄地になる可能性が高く、これらについては、地域全体で農地を守っていくためにも、再度、簡易な土地改良を行う必要がある。</p> <p>基盤整備を行う場合、受益地区の農業者だけで貸借し、地区外の借り手が排除されるので、どのように守っていけば良いか考えてほしい。</p>
果樹経営者研究会会長	<p>果樹王国福島を持続するためには、耕作条件を整備し、技術のある生産者に良い農地を融通してほしい。</p> <p>経営者を育てようとする意識より、一つの組織を中心にみんなで作ろうといった機運が強く、やる気のある経営者が育っていないと感じるので、経営者の育成につながる方向でお願いしたい。</p>
稲作経営者会議会長	<p>地域で農地を守るためには、大字単位にライスセンターを整備する必要があり、補助率も国に要望しながら、各地域で取り組めるようにしてほしい。</p>